



動物レスキュー通信

2019年7月 第74号 (令和元年7月1日発行)

発行元
一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財團

詩月(しづく)：詩月財団 理事長
愛玩動物飼養管理士 一級
ペット災害危機管理士 三級
お問い合わせ：sizuku.foundation@gmail.com

お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

前回はネコちゃんと同じく始める時に必要なものと心構えのお話をしました。今回はその事を踏まえた上で、ネコちゃんと共に暮らすと決めた時に、「自分」はどうなれるかやんがどうなりなのかを判断する参考にして頂きたいでです。

どんな選択をするの?

代はだいたい生後6ヶ月くらいの子を指します。6ヶ月くらいの年齢は人間の年齢で言うと1歳ほどです。(この頃)はもう、見た目も成猫と同じどんどん変わりがありません。早いネコちゃんは、1ヶ月ほどつと癡情し、子孫を残す事が可能になります。身体の成長は、1歳前後ではほぼ止まります。子猫のメソットとして考えられる事は、成長を見守る楽しみがある。成猫よりも、より長く一緒に暮らす事が出来る、活発に動くのでよく遊び事が出来ます。逆に、メソットには、授乳期や離乳期の子猫は、頻繁な食事を排せつのお世話が必要なため、手がかかる、体調が安定していないため、きめ細やかな健康管理を必要とするやんちゃで手がかかる場合がある。逆に成猫を選択した場合のメソットは、子猫に比べると体調が安定している年齢にもよるが比較的落ち着いた生活が出来る、避妊・去勢済みの場合がある。メソットは、これ以上の成長はないため、見た目や性格など大きな変化を見つける事が出来ない、子猫よりも一緒に生活できる時間が少ない。②オスカメス

向としてはオスは甘えん坊でやんちゃ、活発ですが、メスがクールでネコらしい子が多いです。そして食い主さんが女性ならオス、男性ならメスをお勧めします。これは私の経験上の感覚ですが、ネコちゃんも人間と同じく、同性同士よりも異性の方が好きなのです。(3)短毛種か長毛種か 長毛種はエレガントな見た目で綺麗ですが、その分、排泄時や食事の際など、様々な時に汚れが毛」付着しやすく、ネコちゃん自らの毛づくろいだけでは身体を清潔に保つ事が難しく、「定期的なシャンプー」、そして「ラッシング」もこまめにしてあげないと、毛がもつれて毛玉たらけになってしまいます。毛づくろいの際に飲み込んでしまう毛の量も多いため毛玉症にも注意してあげる必要があります。短毛種の場合は自分の毛づくろいのみではなく大丈夫なため、よほどの事がない限り基本的にシャンプーはしないでも大丈夫です。「ラッシング」は抜け毛やスキニンシップの為に必要ですが、毛が絡まってしまうような事はほとんどありません。又、多頭飼いの場合にはお互いで毛づくろいし合うのでより安心です。日々のネコちゃんの身体のケアにあまり時間をかけられない場合」には短毛種を選ぶ方がいいでしょう。(4)雑種か純血種か 猫種による外見の特徴や性格の傾向が分かれている純血種は、子猫が成猫かに関わらずある程度の予測がつきます。しかし雑種の場合は大きさや性格などが全く分からず、未知数です。又、私の愛猫も全て「うだつたの」ですが、捨てられている所を拾って育てるなど、元ノラネコの場合は健康状態も全く分かりません。保護した時には元気に見えて



も感染症にかかってしまった事もあります。以前、私が経験した事なのですが、見るからに病気の子猫を保護しました。左目は飛び出でていて、右目は閉じたまま、すぐに病院に連れて行きました。風邪が原因でどうなつてしまつていて、体力をうけて左目を手術し、右目は見えるまで回復し、「これから楽しい猫生を私と一緒にやりなおそう」と思つていた矢先、バルボワイルスに感染していた事が発覚し、発症。そこからは1週間ほどの短い命でした。又純血種を選択したとしても、現在は健康状態に関して、遺伝性疾病が発生する確率が高い事が分かつていています。遺伝性疾患とは、純血種はその形態的な特徴や遺伝的背景から、特定の疾患が多発する事です。例えばスコティッシュフォールドに多い骨軟骨異形成症、「これは簡単に言うと骨が正常に成長しない病気です。これはその猫種が骨軟骨異形成による身体の特徴を元に生まれたってきたからなのであります。例えば鼻がペチャつとしている猫種、ペルシャやヒマラヤンなどは「軟骨形成不全」と云ふ異常の影響で鼻がしつかりと成長せず」ペチャつとしているのです。スコティッシュコットンドやアメリカンカールなどの耳が折れている猫種やマンチカンなどの足が短い猫種は「軟骨異形成」によって作り出されています。軟骨が正常に成長しない事によって耳が折れたり足が短かたりするのです。その影響で耳や足だけではなく、他の部分にある軟骨も成長不良を起こしてしまつ事があるのです。その他にもメインクーンに多い肥大型心筋症、アビアン・アンに多い変性網膜症など、純血種を迎える前には、その猫種の遺伝性疾病の有無を確認し、その症状や治療法などを理解し、必ず納得した上で迎えるようにして下さい。問題が起きてから「知らなかつた」ではネコちゃんも飼い主さんも不辛になつてしまします。どんなネコちゃんを迎えるかという事も、ネコちゃんと飼い主さんの幸せのためには大事な選択となります。(詩月)